

## ラグビー部

委員 佐 藤 記

此の秋を吾がラグビー部も本年度最後の幕を下して去つて行くのも何となく心苦しく残念である。それに勇壯なるラグビーの面影も打ちすてなければならぬと思ふとたまらなく名残惜しい。

昨年から今日に至るまでの戦跡を述べて、参考に致したいと思ひます。

昨年の對盛中戦には同點で引分した、其れ故今年は何が何でも勝たなければならぬと暑中練習を續けた。

八月!!そこに學生のみが知る夏季休暇の喜あり。歡喜心に溢れて手の舞ひ足の踏むところを知らず。苦闘熱氣も物ともせず、吾がラ

グビー部は始めての夏季修業をした。

かくして岩中は今シーズン始めて見せた猛烈なる闘志と作戦によつて強敵盛中軍を撃破し、今年は北日本大會始まつて以來始めて優勝の記録を樹立した。

吾々は其の試合に先立ちての練習は？ 吾々はたい涙の苦闘を續けた。

あの炎熱照り輝く太陽の下で汗みどろの練習や、雨の日も身體の許す限りの猛練習だ、それに吾々は平素から復讐の二字を固く胸中深くきざみつけ寸時も離さなかつた。それが吾々をしてかく成らしめたものと固く信ずる。

夏中休暇を利用しての合宿も事新なる思ひ出の一つである。

何しろ暑い盛りの眞夏の事であるからしてその苦痛努力も一通りでは有りません。一週間の短時日の合宿ではあつたけれども、其の秩序正しき整然たる練習、その練習には『秋工打倒』の四字を筆太に書き付けてそれを念頭に置いて涙ぐましき苦闘を續けた。それが此の秋に勝利を物語つて居るものと信じて居ります。

それには吾々は次の如き時間割を定めて練習を續けた。

(午前) 朝六時起床——七時朝食——九時より十二時迄練習。

(午後) 十二時半より晝食——三時より六時迄練習、夕食後研究會、九時消燈。

ホイツスルの一聲で以て朝は六時に何が「ウ」でも「オ」でも起きなければならぬ。そこで一同のものは眠い眼をこすりながら起きて來るのも何となく面白い。今尙當時の笛の音がなつかしく感じられる。

昨日の練習で體中はどこにさはつても痛い。足はもうどこをさはつても動かない。痛い。な、苦しいな、などと互に話し合ひながら顔も綺麗に洗つた所で一同は向き合つて食事をするのである。朝食も終つた頃には、もう吾々を焼殺す様な光がもう慘酷にも東の空から昇り、雲一つとしてない青天から顔をもたげてにくらしくも吾等をにらみつけて居るのである。今日も暑くなるのかなあ!!など、小言を抜かして居るもの、又、今朝の飯が味が良いとか悪いとかと批評して居る者、様々だ。その様な事が誰言ふともなく室内にもれて來

る。七時頃には皆んな食べ終る。

併し午前中の練習には未だ二時間もある。

然し話して居る様な者も見えない。互に向ひ合ふて寝て居る者、又人の足をまくらにして居るもの様々だ、中には雑誌を見て居る者もあるが、それも二十分も見て居ない。さうして居る中にいびきをする者も出て來る。多分それ等の者は幸福な天國でも夢見て居る事であらう。此れ等が安々と眠るまもなく此の頃には再び『ホイツスル』の音が憎らしくも天國の夢を破つて四面に響きわたるのだ。

さあ準備だ!!と云ふ譯で互に起し合ひ準備を整へて、いつもの合宿所より遠からぬ八幡神社境内に出發する。これから三時間のぶつづづけの練習だ。

何しろ熱い此の酷暑が餘計に吾々をして疲れさせ、又苦しめる。頭はもう「ボウ」とする腹は焼ける、水は呑みたい、併し此處ぞラグビーマンの勇氣がまんの出し所と、元氣よく走る。飛ぶ蹴る、寸時の暇もない。此の様にして午前の練習もまづ終へるのである。その時こそ吾々の一番嬉しい時、その時分には目は「ボウ」として何も見えない、腹は背中

に付きさうだ、たゞ吾々の求めるものは水だ!! 今見れば見ただけでも、ぞつとする様な大コップで五、六杯も呑む、併し未だ十分でなさそうだ。晝飯も終へて約二時間休憩して三時より午前と同じ様な練習が大慈寺小學校に於て六時頃まで。一日の日課も終へて一同が歸宿する頃には、太陽も西の空に傾き暑さもやうやくいづこへやら過ぎさり、涼しき風が吾々のほゝをつたはつて過ぎ、街々には貧しげにも電燈の灯がかすかに輝いて居る。大空を仰げば一番星や二番星が所々點々と光り輝いて居つた。又近くのお寺の鐘が山から川へ街から街へとつたはりやがては暗の中に吸ひこまれてしまつた。

あゝこれで今日一日の苦行もやつと終つたのかと思ふと胸の中が晴れ渡つた様な氣がする、一日一日と積まれて行く、技倆進歩を見出した時に……吾々が宿に歸り、ユニホームをだき合つて互ひに二貫目もあるだらうなどと量り合つたのも面白かつた。又近所の人々は私達の眞黒な體を見て二三年も穴の中で働いて居る人間の様だと云つて笑つて居た。

宿より西山岩手の靈峯を眺むれば、赤き夕

日は一面山火事の如く空を覆ふて居た。……そして吾等は風呂へ急ぐ、かうして一週間の苦難苦闘と戦ひ意義ある合宿練習を無事終了したのは八月一日であつた。

一同は楽しき苦闘を續けた宿所に來るべき日を約して眞白き胞縑に包まれて涙の別れをつげた。

そうして其の合宿の賜として何が吾々に報いられた? 時は流水の如く過ぎ、時は刻まれ、八月の休暇もまたゝたく間にすみ、涼しい風の吹く九月となつた。吾々の意氣は更にあげられ來るべき大會を目ざして新なる練習は開始された。そして橢圓形の球は再び青空高くけられた。併し「秋工打倒」の念願も終に達せず非常に残念に思ひます。

### 北日本選手權大會記

今日こそは北日本ラグビー大會の覇者を決する最後の戦!! 岩中對盛中の名實共に物語る金的試合。

見よ再び拍手の嵐と共に正々と走り出でた若人の一團こそ吾等岩中軍である。赤黒のダングラのユニホームに純白パンツ白に緑のつ

けた靴下の目ざめる様な服装!! 全校から選りすぐつたベストメンバーだが、岩中精神にもえる若武者、盛中何者ぞと云つた闘志満々の面魂だ。

兩軍相共にかたをならべ睦ましく話し合ひグラウンド中央に整列すると全應援團總起立脱帽の上に校歌天をつくやがてさつと東西に分れて兩軍は主審K氏審判の下に花々しく戦は(九月十九日)二時三十分岩中松岡のキックオフで展開された。

前半岩中一トライ盛中一トライで三對三の同點であつた。

後半に入り互にゴール前に激戦を續け再び同點であつたが岩中更に一トライを挙げ九對六と離れた儘盛中を押して快勝した。

### 試合經過

前半 兩軍固くなつたまゝゲームは進んだが盛中軍キックオフの球を駒嶺取るやキックし中央に於て密集、スクラムとなり盛中軍に球が出てコーナーパスが行なはれ、ウイングのキックで盛中側二五ヤード邊りでランアウトとなり、その球を赤坂取つて右側にトライ三點先取さる。ゴールならず併し岩中軍その

三點を敵に先取されしも少しも落膽の色なく吾等には未だく彼等を壓する堂々たる自信と力が十二分に有り、其の時には吾等には盛中軍をおそれるにたらずと、餘りにも彼等を弱く見定めた結果おしくも先に點を與へてしまつた。

十四分、岩中は見事にも密集より球を取り佐藤此れを川村にパスす、川村惡戦にもかゝらず好く取りオープンヘキツクす。その球ウイングにとゞかなかつたが松岡近くからその球をおふて瀧澤目がけて蹴るその球を美事に取り、カツテングを用ひ敵をなやまし、あゝ!!危いと思ふに彈丸の様なスピードで盛中軍TB線を突破し猛烈なる獨走のもとに右隅に岩中最初のトライを擧ぐ。

ゴールならず。(岩中三盛中三)

後數分間一進一退の凡戦を繰返す中ハーフタイムとなる。

後半 審判の笛は高らかに響いて、再び戦は開始された。井戸側に陣した盛中軍の始蹴である、球は淺く左に蹴られて、敵陣十ヤード線少し向ふへ落ちた。忽ち兩軍は入り亂れて球を奪ひあふ。大木の如き巨人小幡がつか

んで駆け出すと盛中軍のフォアワードが敢然とタツクルした。忽ち壯烈極まる密集の展開だ。その球を取るや盛中軍は見事に我等目がけてタツチに蹴りこんだ、タツチの地點からラインアウト(球を投げこんで試合は再び返さる)よくも吾等に球が出て佐藤此れをとり美事な球を川村にパスするや川村よく取り鮮やかなキツクのもとに敵陣深く蹴り再びラインアウトとなる。

今度は球はすぐ出なかつたのでタイトスクラムが組まれ、ガツチリとした腰の据つた岩中フォアワードは腰の高い盛中をゲン／＼押しつける、スクラムの球は忽ち岩中側に掻きだされて佐藤からTB川村、石川、瀧澤、松岡へと巧みにパスされた。ハア!!と觀衆や吾等應援團は思はず聲をあげたが球はすぐ盛中軍に奪はれてしまつた。然し岩中軍はすばらしい元氣である。殊にコーターの松岡、川村小幡の如きは巨象の前の縞馬のやうなダツシユで右に左に馳せまはる、又ハアフに佐藤、澤藤ありFWに巨人佐々木、工藤、濱田、金田一いづれも元氣一杯、果然開始後十二分、中央からTBパスで盛中軍右三十ヤードに攻

め入つた、岩中軍は右よりのタイトから球を取るや左にさつとぬけ佐々木此れを受けて更にぬけ快走悠然と左タツチラインに沿ふて走り出し敵軍の強引なタツクルを片手に拂ひながらインゴールの左隅に飛び込んで見事なトラ。イゴールならず。ワット起る拍手歡呼!!

併し幸先大いによろしく、だが敵も今日はすばらしいゴンデションらしい油斷は出來ないぞ!!と見るまに奮起一番した盛中軍は再び中央線から始球するや否や猛然と岩中軍に攻め入つた。岩中軍は四、五人のFWが列を組んで小さく球を轉がしながら進み出した、ドリブルだ。五ヤードも進まない中に敵のTBの一人の爲に進路を阻まれたと思ふと誰かの爲に球はタツチに蹴り出された、ラインアウトからタイトになり岩中軍押され氣味と思ふ間もなく、盛中赤坂君の爲に右隅にトライさるゴールならず、又もや同點となる、觀衆「アー!」と。ゲームはいよく白熱してきた。

二十三分頃、岩中は中央から佐藤、川村、小幡と球を渡しながら敵陣二十五ヤード線に攻め入つて好調子を見せたが、敵もさるもの

澤藤のダッシュ突進をタツクルに粉碎し、一  
舉岩中軍十五ヤードに攻め返した。川崎よく  
前球を取りて横つ走り敵陣ふかく好タツチを  
送つて危機をのがれた。

後半 時間も餘す所僅かだ。直前岩中軍は  
中央タツチのラインアウトから盛中軍の送球  
失敗を佐藤ひろい右中間敵本陣へ蹴り込むや  
敵軍ラインアウトに出す。

吾等好機至れりと思はんばかりに全力をそ  
ゝぎラインアウトより美事なFWが最も得意  
とするドリプリに入り佐々木それをすくひ取  
り左陣にトライす。まもなく審判の笛高く鳴  
りひびいた。後半戦の終了を告げる笛である。  
萬事休矣！悍馬の如き盛中軍の猛突進に壓さ  
れてさすがの岩中軍もチャンスも少くなく、  
併しこゝに9對6のスコアを以て前年度の恨  
を晴らす。

閉戦の審笛高らかに鳴りわたるや、満場起  
立の中に兩軍の校歌が嚴かに奏でられた。次  
いで第一、第二、應援歌響きわたつた。

今迄敵味方であつた兩軍選手は親しげに肩  
を組み試合に勝つた歡び負けた悲しみ、いや  
もうそんな事は忘れ、唯もう戦ひの感激青春

の歡喜に酔ふた如く泥だらけの顔に涙をたゝ  
へながら拍手を交はした。

觀衆も思はず眼頭を熱くしながらずつと此  
の涙ぐましい輪かくを見まもつて居た。

かくして岩中は勝つた。

岩 中 6 3 3 3 盛 中

兩軍のメンバー

學 木田 藤一 花部 田 藤 藤 岡 幡 村 川 澤 崎

中 々 田

岩 佐濱 工 金 竹 阿 福 澤 佐 松 小 川 石 瀧 川

FW HB TB FB

學 實造 朗 元 一 泰 一 夫 三 保 宏 郎 郎 宏 忠  
中 博 勇 善 重 秀 嘉 牧 羊 幸 三 次 金 地

岡 山 藤 嶺 和 田 邊 村 坂 部 川 幸 金 地  
盛 平 谷 森 駒 志 堀 渡 北 赤 阿 佐 熊 橋 彌 館

省みればかく上達熟練したのも一にも二に

も諸先生方の御努力と又茲に立派なる名選手  
として天下に名をたゝへられた戸島先生の御  
努力と今更蔭ながら深く感謝して止まざる次  
第であります。

岩中石櫻會の一部として面目をかくも立派  
に其の任を全うし得たのは偏に出場者諸君の

努力と、それにつらなる諸兄と石櫻會員諸君  
の熱誠こめたる御援助の賜と深く感謝する次  
第であります。

願はくば後輩諸君よ今後尙一層先生の御指  
導に従ひ尙諸君の努力によつてより善く向上  
發展し近く天下に名をあらはされんことを切  
望して止まない次第であります。